

画像加工作業が作業者の気分を与える影響の調査

Editing Photographs Increases Positive Affect.

吉原 優華里[†], 日根 恭子[†]
Yukari Yoshihara, Kyoko Hine

[†] 東京電機大学, 情報環境学部
Tokyo Denki University
15JK256@ms.dendai.ac.jp

Abstract

In recent years, it is getting popular that upload of edited photographs on SNS services. Previous study suggested that taking a photograph satisfies our willing to remember specific situations or to focus on an aspect of our lives. However, it has not been investigated what editing a photograph itself influences. We found that positive affect increased after editing the photographs. On the other hand, just taking photographs without editing did not boost positive affect, in fact, positive affect decreased after taking photographs. From this result, it is suggested that editing photographs itself increased positive affect.

Keywords — Editing Photograph, Positive Affect, SNS.

1. はじめに

近年, Instagram や snow などの画像加工アプリを使用し, 撮影した写真を SNS へ投稿することが流行している. しかし, 画像を加工し SNS へ投稿することが, 投稿者へどのような心理的影響を与えるのかに関しては, いまだ不明な点が多い. 先行研究において, 写真を撮影すること自体に, 思い出欲求や現実戯画化欲求を満たす効果があることが報告されている[1]. このことより, 写真を撮ることで, 撮影した写真を思い出すことや, その写真が撮影された場面をおもしろおかしくしたいという欲求が満たされ, ポジティブ気分へ誘導される可能性がある. しかし, 写真を加工する作業自体の効果に関する研究は十分ではない. そこで本研究では, 撮影した写真の加工作業に着目し, 写真の加工作業が作業者の気分にもどのような影響を与えているかを調査することを目的とした.

2. 実験

実験: 36名(女性18名, 男性18名, 平均年齢20.58歳)が実験に参加した. 実験参加者は加工作業あり群, 加工作業をしなかった実験参加者を加工作業なし群にランダムに分けられた.

刺激: 実験において質問紙①と質問紙②を用いた. 質問紙①では作業者の作業前の気分を測定するために, 日本版 PANAS[2]を使用した. 質問紙②では日本版 PANAS と利用調査紙を使用した. 作業前後の日本版 PANAS の結果を比較することで, 作業者の気分がポジティブな影響を受けているかを検討することができる. 利用調査紙の質問項目は, 「どのくらいの頻度で写真を加工しますか」「SNS にどのくらいの頻度で自分が加工した写真を投稿しますか」「SNS にどのくらいの頻度で自分が加工していない写真を投稿しますか」「Instagram で写真を加工しますか」などであった.

実験手続き: 実験参加者はまず, 質問紙①に回答した. 次に実験参加者は写真を撮影した. その際, 撮影する被写体についてや, 撮影場所は制限をしなかった. 撮影をする時間については3時間以上とし, 撮影する写真は5枚以上とした. 次に, 撮影した写真から加工作業をするための写真を実験参加者が2枚を選んだ. 選び方について, 実験参加者がもし SNS に投稿するならばどれを選ぶかを基準に選択するよう教示が与えられた. 加工作業あり群は選んだ2枚の写真を加工した. 加工作業は, 実験者があらかじめ用意した Instagram のアプリの加工機能を使用した. その際, 加工作業の時間制限と作業量に制限は設けなかった. その後, 質問紙②を回答した. また, 加工作業なし群は加工作業を行わず, 写真選択後直ちに質問紙②に回答した.

3. 結果

日本版 PANAS のポジティブ情動の評価値について, 加工作業(あり, なし), 回答タイミング(加工作業前, 加工作業後)の2要因分散分析を行った. その結果, 加工作業

と回答タイミングの交互作用は見られなかったが ($F(1,34)=2.24, n.s$), 加工あり条件では, 作業前の評価値 (23.89, $SD=6.28$) よりも作業後の評価値 (25.06, $SD=6.42$) の方が高かった一方, 加工なし条件では, 作業前の評価値 (23.17, $SD=7.21$) よりも作業後の評価値 (20.89, $SD=7.31$) の方が低かった. 現段階では加工作業と回答タイミングの交互作用は見られなかったが, 今後参加者数を増やすことで, 交互作用が有意になる可能性があると考え.

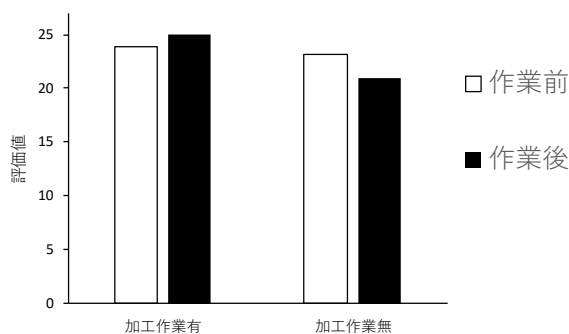


図 1 ポジティブ情動の評価値

4. 考察

本研究の結果より, 撮影した写真を加工することにより作業者のポジティブな気分が向上する可能性が示された. したがって, 撮影した写真を加工し SNS へ投稿することが流行していることに, 写真を撮影して加工することで自分自身のポジティブな気分がより上昇することが寄与していることが示唆された. このように私たちは, 加工作業によって気分をコントロールしていると考えられ, 加工作業自体に心理的影響があると考えられる. 本研究により, 画像を加工すること自体に作業者の気分へ影響があることが明らかとなったが, 実験では撮影された写真の内容や加工方法などの統制は行わなかった. 今後は, どのような写真が加工されるのか, どのような加工が行われるかなどを詳細に検討することにより, より多くの人に用いられる画像加工アプリを提案することができるかもしれない.

参考文献

- [1] 荒川 歩, (2005) “人はなぜ写真を撮り, そして見るのか?”, 立命館人間科学研究, pp. 8.
- [2] 佐藤 徳, 安田 朝子, (2001) “日本版 PANAS の作成”, 性格心理学研究, vol.9, No.2, pp. 138-1.